

日本救急医学会監修書籍「改訂第6版 救急診療指針」

【基本情報】

監 修：日本救急医学会

編 集：日本救急医学会 指導医・専門医制度委員会／専門医認定委員会

発行日：2024年4月初旬（3月下旬に書籍完成，4月頭より一般流通開始）

発行所：株式会社へるす出版

形 態：紙版（上下巻2分冊）＋電子書籍版

判 型：A4判（上下巻とも）

頁 数：上巻 872 ページ（1章～5章収載）／下巻 708 ページ（6章～15章収載）

定 価：上巻 19,000 円（税抜）／下巻 17,000 円（税抜）

【第5版からの主な改訂事項（章別）】

1章 救急医学総論

- 根本的な変更はないが，第5版における「救急医療体制」の項を，「医療計画と救急医療」と「救急医療と地域医療」の2項に分割し，地域医療との関わり等についてより焦点を当てた。

2章 病院前救急医療

- 根本的な変更はないが，テーマごとに項目を分割し，より詳細に解説するようにした。

3章 心肺蘇生

- 章のタイトルを第5版の「心肺蘇生法・救急心血管治療」から「心肺蘇生」に変更した。
- 第5版の項立てをもとに，JRC 蘇生ガイドラインの改訂等に応じ，「新生児の蘇生」の項と「妊産婦の蘇生」の項を追加した。
- 第5版では本章で項立てされていた「薬剤投与と緊急薬剤」「徐脈・頻脈」「特殊状況下の心停止」については，それぞれ関連する別項に記載することとし，本章からは除かれた。

4章 初期診療と鑑別診断

- 主に，第5版における5章「救急初期診療」と7章「救急症候に対する診療」を再構築し，救急患者へのファーストタッチや，症候論的な初期対応に関する内容を，本章にまとめた。
- 救急初期診療の基本的な考え方・アプローチ等をより明瞭に示すために，本章冒頭に「救急初期診療の理論」を新設するとともに，院内トリアージや，気道・呼吸・循環・神経・体温の評価と初期対応に関する項を設けた。

- ショックの概論や電解質異常，酸塩基平衡異常，超音波検査の基本についても本章内で取り扱うこととした。
- 症候論の項立ては基本的に第5版に準じたが，前版では扱われていなかった便秘，尿閉，血尿，咽頭痛，嚥下時痛についても言及するよう追加した。

5章 疾患領域別の救急診療

- 主に，第5版における8章「急性疾患に対する診療」，9章「外因性救急に対する診療」，10章「小児および特殊救急に対する診療」を再構築し，内因性疾患，感染症，外傷，熱傷，中毒など多様な救急疾患・病態への対応について扱う章としてまとめた。
- 項立てとしては，第5版をもとに改変・組み替えを行うことでより内容を充実化させるとともに，末梢神経系疾患や神経筋接合部疾患，内/外因性の筋・骨格系疾患についても取り上げた。

6章 患者背景を考慮した救急診療

- 疾患領域ごとではなく，患者背景ごとの救急対応について述べる章として新設した。
- 第5版でも扱いがあった小児や精神疾患患者のほか，高齢者，免疫不全患者，犯罪被害者，生活困窮者など，救急診療で遭遇し得る患者背景ごとに項立てした。

7章 救急手技・処置

- 第5版の同名6章では「基本手技・処置」と「専門手技・処置」に項立てが分かれていたが，そのような線引きはやめ，各手技・処置を並列とした。
- 項立ては第5版に準じたうえで，新規に「酸素療法」「非侵襲的陽圧換気（NPPV）」「侵襲的陽圧換気（IPPV）」「処置時の鎮痛・鎮静」「関節穿刺」「脱臼整復」の項を設けた。

8章 重症患者管理と集中治療

- 第5版の11章「重症患者管理」をもとに，項立てを一部整理した。とくに「代表的な臓器障害へのアプローチ」については，別章との重複等も鑑みて各項のタイトルや内容を改変した。
- また，新規に「体温管理」と「早期リハビリテーション」の項を設けた。

9章 災害医療

- 第5版の同名12章をもとに項立てを整理し，「災害医療におけるトリアージ」「爆傷」「事態対処医療」「健康危機管理」の項を新規に設けた。

10章 救急医療の質の管理

- 第5版では，救急医療の質の評価・管理や医療安全，院内感染制御について13章「救急医療の質の評価・安全管理」にまとめられていたが，今版では10章，11章，12章に分割し，それぞれ内容を充実させた。
- 救急医療の質の評価や管理に関する本章では，第5版でも扱われていた基本的事項に加えて，救急部門の管理論やチーム医療，レジストリー，成人教育，保険制度についても項立てした。

11章 医療安全

- 第5版からの章の分割・充実化については前述のとおり。
- 医療安全の管理に関する本章では、基本的事項に加えて、院内救急対応システム（RRS など）や医療事故調査制度、医事紛争についても項立てした。

12章 感染管理

- 第5版からの章の分割・充実化については前述のとおり。
- 院内の感染管理に関する本章では、標準的な感染予防策や救急外来部門での感染対策に加えて、職業感染対策（医療従事者のワクチン接種など）についても項立てした。

13章 医療倫理

- 第5版の同名15章をもとに内容を充実化させるため、インフォームド・コンセントを含む医療倫理、臨床倫理、医療資源配分などについて本章にまとめた。
- また、臨床研究に関する倫理や法制度についても本章で新規に取り上げた。

14章 人生の最終段階における医療

- 第5版では「終末期医療」の項があったが、その重要性を鑑み、新たに章として構築した。
- 人生の最終段階における医療（終末期医療）に関する基本的なガイドライン・指針の解説のほか、緩和ケア，家族ケア，臓器提供などについて項立てして取り上げた。

15章 救急医療と医事法制

- 第5版の同名14章をもとに項立てを整理するとともに、「個人情報保護」の項を新たに設けた。